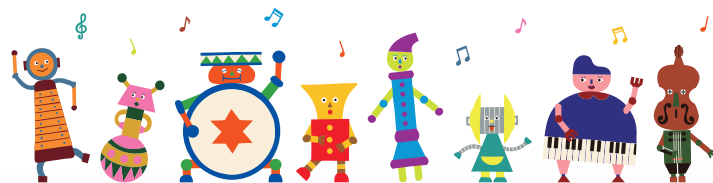


さいたま新都心から小児医療の新時代



埼玉県立 小児医療センター

Saitama Children's Medical Center

病院のご案内



病院長 岡 明



埼玉県立小児医療センターは、1983年に岩槻区で開院し、2016年にさいたま新都心に移転し現在の新病院が開院しました。30年以上にわたり埼玉県内では唯一となる小児医療専門の第三次医療施設として、質の高い小児医療ならびに地域と連携した小児保健・発達の支援など、病める子どもの目線で提供して参りました。

移転後の新病院では、隣接するさいたま赤十字病院と緊密に連携をすることで、総合周産期母子医療センターとして母体・胎児・新生児のあらゆる疾患に対応できる周産期の三次救急医療機関として再出発をし、また、小児救命救急センターでは365日24時間体制で小児の三次救急医療を行える体制となりました。また、国の小児がん拠点病院として地域の小児がんの中心施設としての機能を充実させるなど、さらに診療の内容の充実に努めてきました。

今後も、小児の内科系外科系にわたる専門家をそろえ高度専門医療を実施するとともに、健診や疾病予防などの保健事業、リハビリテーションや療育などの発達支援、併設されている特別支援学校での病弱教育など子どもの健全な育ちに取り組んでいきます。

地域医療機関はじめ関係機関の皆様のご指導・ご協力をいただきながら、小児の健康と保健を支える「最後の砦」としてみなさんの期待に応えられるように努めて参りますので、引き続きのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2020年4月

For the future, for the children

こどもたちの未来は私たちの未来

— 基本方針 —

1

質が高く、信頼される医療を行います。

- 根拠にもとづいた高度で専門的な医療を行います。
- 地域医療機関での対応が困難な医療を行います。
- 地域が安心できる小児救急医療を行います。
- 安全性を優先した医療を行います。

2

地域との連携のもと小児保健、発達支援を推進します。

- 子どもの健康増進、病気の予防、早期発見ならびに発達支援に取り組みます。
- 地域の医療、保健ならびに療育機関への支援、情報提供を行います。
- 小児医療、保健に携わるスタッフの育成を支援します。

3

発育、発達にあわせた良質な環境を提供します。

- 子どもの生活の場としての良質な医療環境を保障します。
- 子どもの年齢に応じた遊びや教育の機会(特別支援学校の併設)を確保します。
- ご家族のための宿泊を支援します。

4

子どもの人権を尊重します。

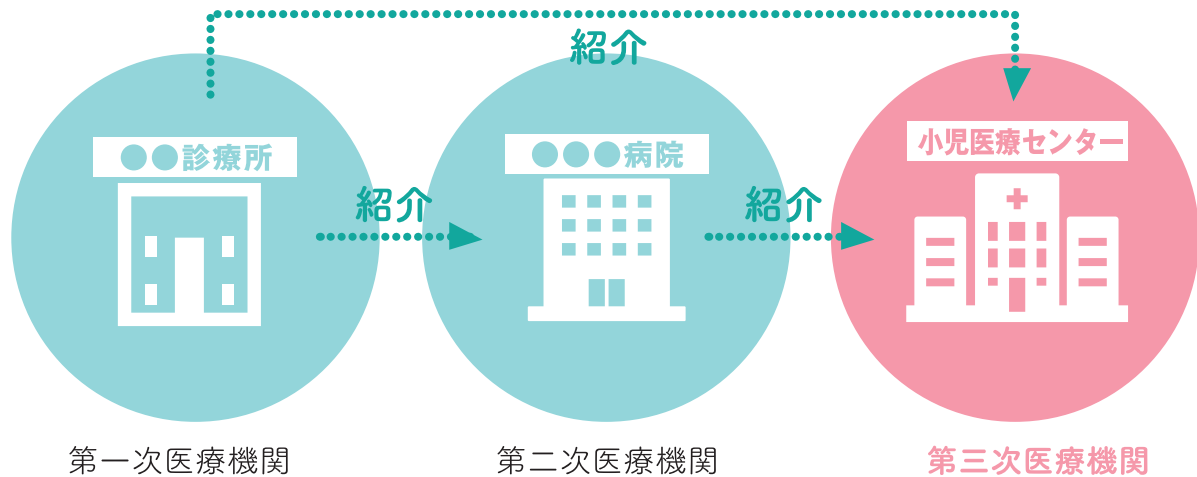
- 子どもの権利を平等に尊重します。
- 十分な情報提供と説明を行い、同意のもとに医療を行います。
- 身体的にも、精神的にも子どもに負担の少ない医療を心がけます。
- 入院期間を短縮し、面会時間をできるだけ多くします。
- 個人情報を守られる権利、診療内容を知る権利(診療録開示)、他の医療機関の意見を求める権利(セカンドオピニオン)を保障します。

当センターでの診療について

紹介・予約制度

●一般外来：048-601-0489 ●保健発達：048-601-2165

当センターは、一般の医療機関では対応困難な小児疾患を専門に扱う、第三次医療機関です。この役割を果たすため、診療は地域医療機関・医師からの紹介を原則とし、緊急の場合を除いて予約制となっています。



診療科一覧

総合診療科	新生児科	代謝・内分泌科	消化器・肝臓科	腎臓科
感染免疫・アレルギー科	血液・腫瘍科	遺伝科	循環器科	神経科
精神科	小児外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科
形成外科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科
小児歯科	集中治療科	救急診療科	外傷診療科	麻酔科
移植外科	リハビリテーション科	放射線科	病理診断科	臨床検査科

病院キャラクター「カリヨンの樹」に住むロボットたち

病院のイメージである大きな「カリヨンの樹」。そこに住む8体のロボットキャラクターは、子どもたちに寄り添い励ます「おともだち」のような存在です。



病院の目印は、小児医療センターのシンボル「カリヨン（組み鐘）」です。



小児医療「最後の砦」として

—さいたま赤十字病院との連携—

周産期医療の充実

人口・出生数ともに全国第5位の埼玉県は、周産期医療への大きな需要があります。近年では、高齢出産の増加などから、ハイリスク母体、ハイリスク新生児となる患者さんも増えており、高度な医療体制の整備が求められています。



患者さんの成長を見守る新生児科医師たち

総合周産期母子医療センターの開設

総合周産期母子医療センターは、MFICU（母体胎児集中治療室）やNICU（新生児集中治療室）を一定数以上備え、リスクの高い妊産婦や新生児を24時間体制で受け入れることが可能な施設です。産科と新生児科の機能を併せ持ち、妊娠・出産から新生児治療までを一貫して行うことができるため、低出生体重児や重度の疾患を持つ新生児にとっては、生まれた直後から手厚い治療を受けられるという大きなメリットがあります。



NICU



GCU

大人と子ども、両方の「総合診療機能」を持つということ

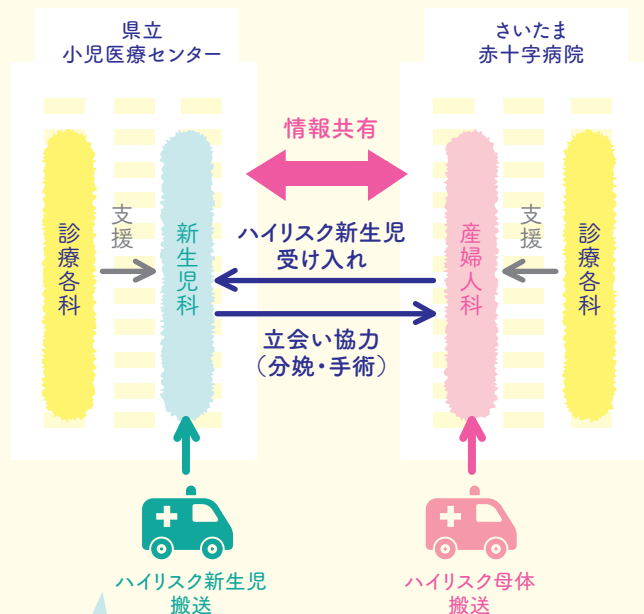
合併症（脳血管障害、心疾患など）や外傷を負った母体、成長に伴う継続したケアが必要な新生児には、産科と新生児科だけでは対応が難しい場合があります。大人と子どもをそれぞれ専門とし、総合診療機能を持つ2つの病院が連携することで、各分野専門医の支援のもと、母子ともにあらゆる疾患に対応することが可能です。

高度医療を提供する充実した設備

新病院移転を機に、新生児科では、NICUを30床、GCU（新生児治療回復室）を48床にそれぞれ増床しました。これらの設備は、さいたま赤十字病院の産婦人科と同じフロアに設置されており、両院スタッフの綿密な連携のもと、手厚い治療を行います。

新生児救急患者の受入強化

小児医療センターでは、これまで他病院からの搬送による新生児医療を行ってきました。新病院においても、さいたま赤十字病院からはもちろん、他の地域医療機関からの受入体制をこれまで以上に強化し、県内の新生児医療の充実に努めています。

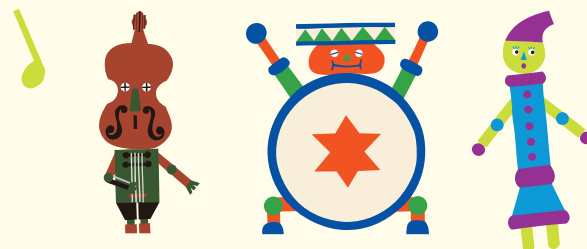


新生児搬送車

小児医療センターが所有する新生児専用の救急車です。患者さんをお迎え搬送し、センターに到着するまでの間、車内にて初期治療を行います。

遠隔胎児診断支援システム

IT・ネットワーク環境を利用し、遠隔地にある医療機関での胎児診断を支援するシステムです。依頼元からオンラインで超音波画像を転送してもらい、専門医師が閲覧して、より詳しい診断を行います。これにより、先天性疾患の早期発見・早期治療による、後遺症等の軽減が期待できます。

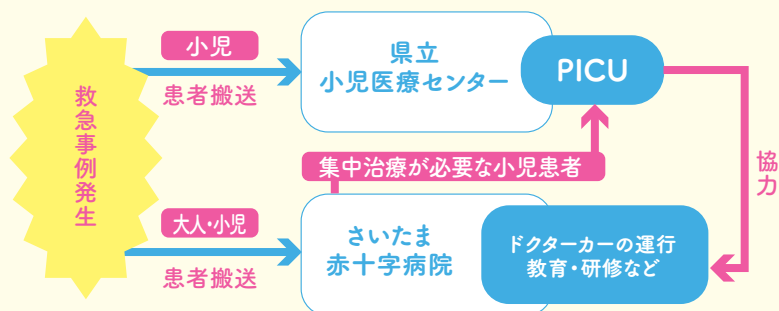


小児救命救急医療の拠点

我が国は、新生児・乳児死亡率は低いものの、1～4歳の幼児死亡率は他国と比べ高い傾向にあります（WHO調べ）。小児救命救急への課題は本県も例外ではなく、小さな生命を救うための体制強化が求められています。

小児救命救急センターの機能

小児救命救急センターは、診療科領域を問わず、全ての重篤な小児救急患者を24時間体制で受け入れます。さいたま赤十字病院の高度救命救急センターと、集中治療を要する小児患者の受け入れや、救急医療スタッフの教育・研修など、様々な場面で連携し、子どもから大人までカバーする高度な救急医療拠点の体制が整備されています。



ER（救急外来）

埼玉県の小児救急患者の約4割は、「不慮の事故」によるものです。当センターでは、外傷を含めた外因性疾患に対応できる専門の救急医を配置し、24時間対応で重症患者の診療を行っています。年間2,000台以上の救急車を受け入れています。

PICU（小児集中治療室）とHCU（小児準集中治療室）

PICUは、小児専門のICU（集中治療室）です。HCUは同じく小児専門のハイケアユニットです。生命に関わるような重篤な状態の患者や、全身管理が必要な患者を受け入れ、集中治療専門医による24時間体制での高度医療を提供します。PICUおよびHCUは、特定の病気やけがを治療する場所ではなく、重篤な状態の患者に集中的な治療を行う施設であり、主に次のような役割を担います。



病棟全体を見渡せるスタッフステーション

- ①周術期管理 …… 大きな手術を行った後の患者の全身管理
- ②院内危機管理 …… 外来や病棟で容体が急変した患者の救命治療
- ③救命救急医療 …… 院外から搬送される三次救急患者の救命治療



2つの病棟で年間2,000名以上の患者を受け入れています。

ドクターカーの共同運営

ドクターカーは、通常の救急車とは異なり、病院から医師・看護師が搭乗して救急現場に直接出動するものです。救急救命士では行わない医療行為を迅速に行うことができ、救命率の向上や後遺障害の軽減が期待されます。

救急現場に小児患者がいる場合、さいたま赤十字病院が運行するドクターカーに当センターの医師・看護師が乗り込み、協働して救命にあたります。年間150回以上出動しています。



安心安全の医療拠点に

小児がん拠点病院の機能向上

当センターは、平成25年に小児がん拠点病院の指定を受け、様々な治療や研究に取り組んできました。現在、血液がんの患者数は全国一で、固形がんもほぼ全ての種類に対応できます。また、治療成績を改善するための臨床試験にも積極的に参加しており、登録患者数は全国で最も多くなっています。

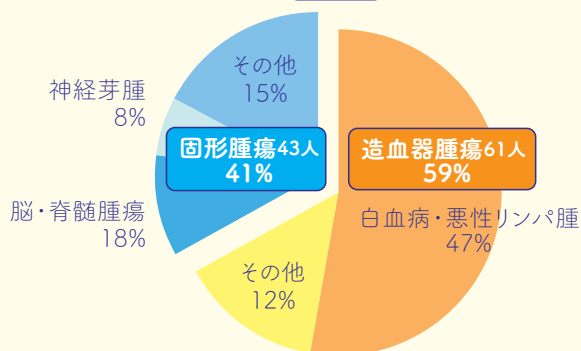
豊富な経験と研究成果を基に、小児がん治療に取り組む他の医療機関とも連携して、さらなる診療レベルの向上を目指します。

1 28床の無菌病棟を新設しました。無菌病棟内には、さらに、陽圧空調の無菌室・準無菌室を4床ずつ設け、造血幹細胞移植を行う患者に対応しています。

2 小児がん相談支援センター
患者さんご家族の方が抱える療養生活への不安や負担を和らげるため、様々な制度の紹介や、生活上の相談を行っています。

令和元年度初診患者数

(全104人)



※他に、再生不良性貧血などの良性疾患146人

小児感染症への対応

これまで県内に不足していた、伝染性疾患の小児患者を受け入れる本格的な設備です。病棟の専用エリアに個室18床を設置。外来や救急等の動線も一般患者とは分離し、感染拡大を防止する万全の体制をとっています。



専用個室
①前室付き
②トイレ設置
③陰圧空調

※写真は個室の一例です

子どもの成長と発達に関する支援

当センターでは、医療の提供だけでなく、子どもの成長と発達に関する支援にも力を入れています。新病院では、発達部門を3階に設け、より充実した診療を提供できるよう整備しました。

保健部門

保健部門では、医師が下記の外来診療を行っています。

- 精神科・精神保健外来
- 遺伝外来
- 予防接種センター・予防接種外来
- 生活アレルギー外来
- 成長発達外来
- 心臓検診外来
- 夜尿・遺尿外来



発達部門

●発達外来

発達外来では、乳幼児期の発達面における問題を指摘されたお子さんを対象としています。乳幼児健診や発達相談、医療機関からの紹介、当センターNICU退院後のお子さんのご依頼をお受けします。

●発達支援

発達支援部門では、様々な発達面での困りごとを持つお子さんやそのご家族を支援しています。

- 理学療法(PT)
- 言語聴覚療法(ST)
- 作業療法(OT)
- 心理
- 視能訓練



ー最新医療の導入ー

身体にやさしく、効果的な治療を

近年では、最新技術を用いた身体にやさしい治療法の普及が進んでいます。特に、治療後も成長発達を続ける小児にとっては、筋肉や臓器などへの影響を最小限に抑え、痛みや傷跡によるストレスを軽減することに大きな意味があります。

内視鏡手術室の増設

内視鏡手術は、小さな傷で痛みが少なく、術後の回復も早い低侵襲手術です。当センターは、鼠径ヘルニア、虫垂炎などをはじめ、年間約400件（小児医療施設では全国最多）の実績を持ち、他院では開腹を行っている疾患にも、積極的に内視鏡手術を取り入れています。



ハイブリッド手術室の新設

カテーテル操作のための血管造影装置を手術室に増設することで、通常の開胸手術と低侵襲なカテーテル治療の統合（ハイブリッド）を可能とした設備です。主に循環器系の手術で利用し、必要に応じて2つの治療法を使い分けながら、身体への負担を軽減しつつ、より正確で効果的な治療を行います。



高精度なリニアック装置

リニアック装置は、体外から放射線を照射して、がん治療を行うものです。新病院では、高精度放射線治療が可能な最新機器に更新。精度の高い集中的な照射によって正常組織や臓器へのダメージを抑え、副作用等を軽減し治療効果も期待できます。



確かな治療につながる、高精度の診断

MRI



検査前の入眠室

MRIは放射線を使わないため被ばくが無く、身体にやさしい検査方法です。新病院では、これまでの1.5Tに加え、3.0Tの装置を導入。精度の高いMRアンギオグラフィーや脳神経線維トラクトグラフィーなど、新たに様々な検査が可能となりました。

当センターで行う小さなお子様の検査は、身体の動きが撮影に影響しないよう、必要に応じて麻酔科医が鎮静を行っています。

CT

同時に異なるX線エネルギーを撮像できる、dual energy CTを導入しました。これまで以上に多彩な画像情報が収集可能となり、被ばく量低減にも効果があります。

当センターでは、感染症防止のため、抵抗力の弱いPICUやNICUの患者には、外来・救急とは別に専用のCTを設けています。

SPECT-CT

SPECTとCTを組み合わせることで、より精度の高い核医学検査が可能になります。



小児医療の発展のために ～ 臨床研究部の新設 ～

当センターでは、治療の質の向上や新しい治療法の開発を目指し、様々な研究が行われています。新病院では、そうした研究をセンターとして統括し、マネジメントするための「臨床研究部」を設置し、下記のような活動を行っています。

- ① 研究の実施
- ② センター職員が行う研究の支援
- ③ 外部研究開発機関等との連携・調整

居心地の良い癒しの空間を

ー快適な療養環境づくりー

新病院の病室は、個室が80床（一般病床の約4割）、大部屋も最大で一部屋4床までと、ゆとりのある設計になっています。また、親しみやすいキャラクターや、院内各所に散りばめられたホスピタルアートなど、患者さんご家族の方々にとって癒しの空間となるような工夫をしています。

● 病棟

一般病棟は、全ての病室から窓の外の風景が臨めます。ゆったりとしたスペースで落ち着いた療養環境を提供します。



広々とした4床病室



各病棟にご家族のための休憩ラウンジがあります。



（上）いろいろな形のビルが立ち並ぶ、新都心の風景。近くに新幹線や電車も見えます。

（下）開放感のある吹き抜け階段

● ホスピタルアート



手術室周りにはにぎやかな動物たちの世界が広がり、患者さんの不安や緊張を和らげます。



エントランスホールでは大きな樹の壁画がお出迎え。原画は入院中の子どもたちが作成しました。



家族滞在施設 ドナルド・マクドナルド・ハウスさいたま

6階にドナルド・マクドナルド・ハウスを設置し、予約制で7部屋を提供しています（病院内設置は全国初）。遠隔地からの入院に際して、付き添いや面会などに来られるご家族の、経済的・精神的負担を軽減します。



公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス
チャリティーズ・ジャパン

⇒ドナルド・マクドナルド・ハウスとは？

ドナルド・マクドナルド・ハウスは、「わが家のようにくつろげる第二の家」をコンセプトに地域のボランティアの協力を得て運営されます。利用家族の負担にならないように1日1,000円で滞在することができるのは、多くの企業や個人からの寄付・募金のおかげです。

付加機能との一体的な整備・連携

子どもの発達に関する支援

埼玉県発達障害総合支援センター(3階)

発達障害児を支える専門的な人材の育成や、保護者への支援など、発達障害支援を総合的に行う機関です。



埼玉県の医療を担う人材の育成

埼玉県総合医局機構 地域医療教育センター(8階)

医師の不足、診療科・地域間での偏在といった問題の解決を目的として、医師のキャリア形成支援や医師不足病院への派遣など、総合的な医師確保対策を行います。また、県内の医療従事者の技能向上のため、シミュレーター等を活用した様々な医療職の研修を実施します。

埼玉県立大学大学院サテライトキャンパス(8階)

埼玉県立大学(越谷市)は、保健医療福祉分野の人材育成において、本県の中心的な役割を担う教育機関です。社会人が仕事を持ちながらも大学院教育を受けられるよう、サテライトキャンパスを開講しています。



消防・防災、災害時医療の拠点

埼玉県消防学校救急救命士養成課程(8階)

さいたま赤十字病院等の高度救命救急センターなどと連携しながら、消防本部(局)の救急隊員を対象として、救急救命士の資格取得を目的とした教育訓練を行います。



災害時被災者支援機能(3階)

大規模災害の発生時に、防災関係機関が情報収集・連絡調整などを行います。

埼玉県立けやき特別支援学校(7階) 小児医療センター移転に伴い、旧病院に併設されていた岩槻特別支援学校を移転しました。

小児医療センターに入院・通院する小中学生が学びます。学習は一人一人の体調や治療に合わせて進められ、主治医の判断により、教員が病室に出向いてベッドサイド学習を行うこともあります。

文化祭や修学旅行などの行事もあり、児童生徒が入院・通院前と変わらない学校生活を送れるようサポートしています。



プール授業



パソコン教室



文化祭



体育祭



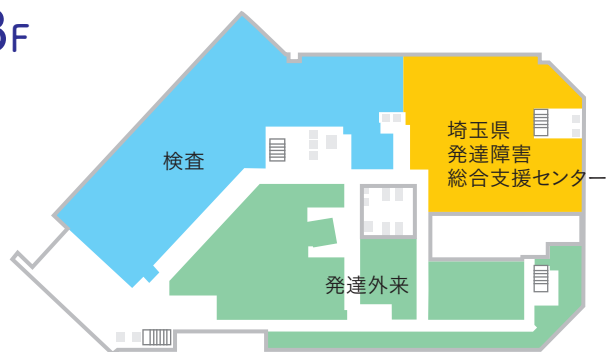
教室



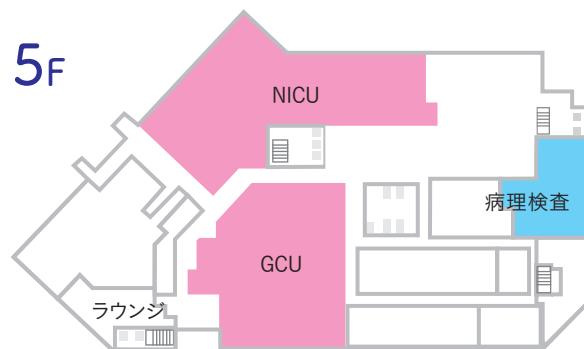
プール

病院 ■ 施設案内

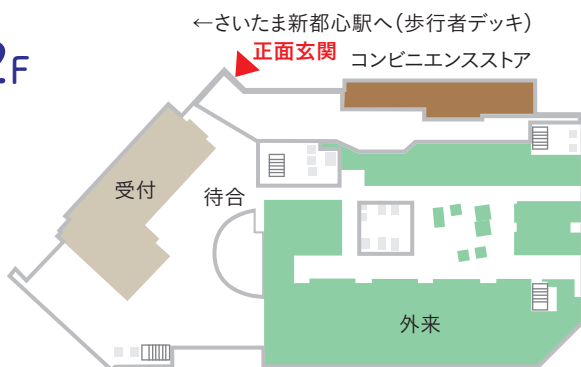
3F



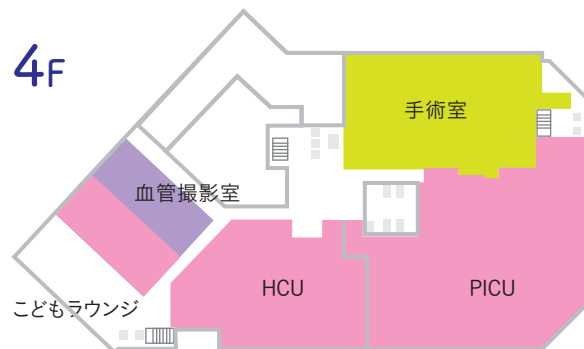
5F



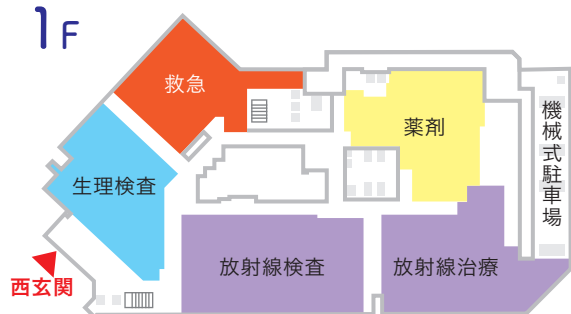
2F



4F



1F



13F

12F

11F

10F

9F

8F

7F

6F

5F

4F

3F

2F

1F

B1F

病棟

病棟

病棟

病棟

付加機能

けやき特別支援学校

体育館

ドナルド・マクドナルド・ハウスさいたま

管理部門

病理

病棟 (NICU・GCU)

病棟 (PICU・HCU)

手術

付加機能

発達外来

検査

外来

受付

薬剤

放射線

検査

救急

管理部門

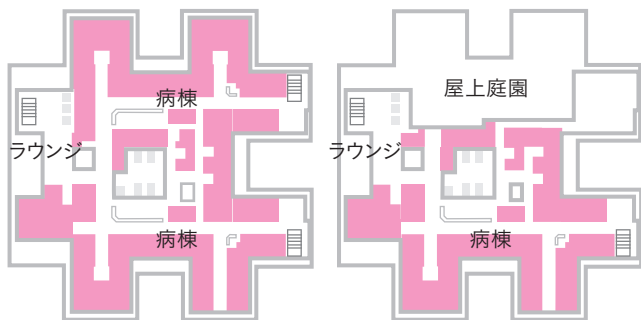
さいたま赤十字病院

建設場所 さいたま市中央区新都心1-2
敷地面積 10,031.17㎡
延床面積 65,447.69㎡ (付加機能を含む)
階数 地下1階／地上13階
最高高さ 65.19m
構造 鉄骨造・鉄筋コンクリート造(免震構造)
駐車台数 335台
病床数 316床



9F-11F

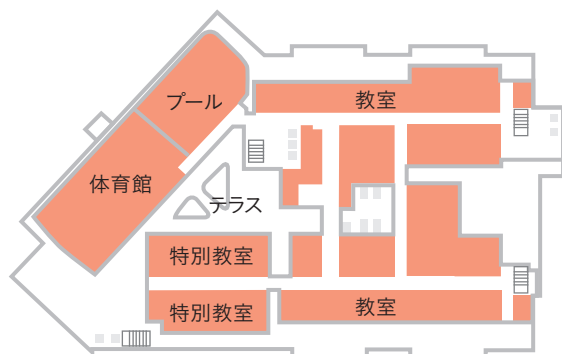
12F



8F



7F 埼玉県立けやき特別支援学校



6F





県立小児医療センター開院時から親しまれている、シンボルマークのカリヨン（鐘）。

シラコバトの親子には、子どもたちが元気で未来に羽ばたくようにとの願いが込められています。



病院へのアクセス

●電車のご利用

JR京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心」駅から徒歩約5分

JR埼京線「北与野」駅から徒歩約6分

※歩行者デッキをご利用ください。.....に沿ってお進みください。

●お車のご利用

機械式駐車場 320台（有料）

※大型の車両は平置き駐車場（15台）をご利用いただけます。

※できるだけ公共交通機関をご利用ください。

埼玉県立小児医療センター

〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2

代表：048-601-2200

予約：（一般外来）048-601-0489

（保健発達）048-601-2165

<http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/index.html>

